

桜友会報

平成10年5月1日発行 第72号より抜粋

■21世紀をめざしての日本の半導体産業

■「自分の頭で考える」訓練を

■日本のお酒と文化を楽しむ

■新刊紹介

第16回経済学部講演会より
9年11月28日(金)於：記念会館

21世紀をめざしての日本の半導体産業

(株)東芝常勤顧問(前取締役副社長)川西 剛氏(24年旧高卒)

15兆円産業と言われる半導体産業は、今年が50年目の節目だ。米国でトランジスターがベル研究所で発明されて50年、日本で事業化されてから40数年になる。この20世紀を見て、半導体産業ほど特筆すべき産業は日本にはなかった。成長率、技術のイノベーション、国際化の広がり、全ての面で夢が多かったし、まだ夢のある事業はこれからもないと思う。こういう産業に携われたことは、私の大きな幸福だったと思う。

変革が起きている

21世紀を前にして変革が起きつつある。第一は、自己完結型のビジネスが困難になってきた。個人や、一つの組織、一つの会社、一つの国で全てを賄うことが出来なくなってきた。チームワーク、相互協力、異業種交流、国境を越えた協調等が避けられなくなった。

第二に、急激なイノベーションが起きており、必ずしも組織が生み出すのではなく、非常にクリエイティブな個人から新しい発想が出てくる。個人の資質、競争意識、能力依存が益々高まる。この矛盾をどう解決するかが大きな経営課題だ。

日本は米国に学べ

日本は農業社会で、村意識が強い。人材を企業に従属させ忠誠を誓わせ、その代わり手厚く保護し永久就職の様なぬるま湯に漬かっている面が多い。日本のカルチャーは物を作るHow to makeに特色があり、組織力で御輿を担いでワッショイワッショイというやり方だったから、クリエイティブなこと、何か新しい物を作るWhat to makeが弱い。こういう面では米国に太刀打ちできないと思う。

米国に学ばねばならない第一は最高機関の役員会議を直すべきだ。米国のある優良企業では9人の役員のうち7人が外部役員であって、朝から皆でケンケンガクガクの会議をやっている。日本では外部役員はごく少数でなあなあ役員会が多いと聞く。第二に、米国は株主総会は完全にオープンで、役員は株主の質問に答えなくてはいけない。米国人は討論に馴れているから、ユーモアをもって答え、話題をそらすことも自由自在にできる。総会が終われば、皆で一緒にコーヒーでも飲んで下さいと役員が間に入って話をする。第三に、企業家精神である。シニアの従業員、技術者、広い意味のオフィサーにはストックオプションというのがある。これは頑張れば株価が上がれば、お前の収入は増えるよという成功報酬である。これのあるなしで会社の姿、株価に対する関心度はべらぼうにちがう。第四は、個人の能力開発の問題がある。上長が自分の能力を潰すと判断したら、自分の能力を認めるよその会社に行くこともできる。日本では個人の能力を組織が潰すケースが沢山ある。第五は、自分の意見をしっかり持ち、その意見を大切な時に堂々と言うことが大切だ。日本では沈黙は金だが米国では無能であるとみなされる。第六は、米国ではバッドニュースはグッドニュースだ。問題点は全部上にあげて皆で真剣に考える。日本は「知らせの無いのは良い便り」であるから都合の悪いことは上にあげない。この差が重大な結果になる場合が多くある。

21世紀の半導体産業は

一つは、芭蕉の句に「先人の後を追うな、先人の求めたものを求めよ」というのがある。芭蕉が奥の細道で旅をした時に目的は先人がどういう道を辿ったかというのを探ったかも知れないが、実際は、自分で新しい世界を切り開いていった。半導体も同じで、50年経ったが、やはり何が求めるものなのかに重点をおくことだ。二つ目は、どんな小さなことでもそこで先ずトップになる。大企

業でも中小企業でも、人のやらないことをやればトップになれる。大企業はそのニッチトップが沢山ある企業であり、中小企業はそれが少しの企業であるということだと思ふ。三つ目は、外部情報に敏感になることだと思ふ。色々な外とのやりとりの中で、外との苦闘の中で、自分自身を見出していかねばならない。

新聞、テレビ等で問題になっているような、自分達の仲間で利益をうまく隠したり、積んだりということでは本当の会社の成長はあり得ないと思ふ。

最後に、情報化の問題がある。情報化社会の最大の欠点は情報が多すぎることだと思ふ。むしろ現在は、情報は情報で利用するにしても「瞑想の時間をどうやって増やすか」ということを経営者は心に問うべきだろう。

[TOP](#)

会員トピックス・・・

日本のお酒と文化を楽しむ

村田 淳一氏(36年経済卒)

質、量共にナンバーワンと言われる銘酒の会を十数年間、手弁当で主宰していらっしやる村田淳一さん(36年経済卒、元菓子問屋専務・現(株)ローソン顧問)をお訪ねして「日本の酒と食の文化を守る会」(旨い酒、美味しい料理を嗜む会)のお話を伺いました。

村田さんは約20年程前、新潟の或る有名な蔵で作っているお酒を飲んで当時としてその素晴らしい味わいに惚れ込み、それ迄は甘くて、べたべたした日本酒に嫌気がさし、もっぱら洋酒を飲んでいたのですが、以来すっかり日本酒ファンになられたそうです。

研究熱心な村田さんは、早速飲み仲間といいお酒を探して飲んでいましたが、次第にいいお酒を皆さんにお勧めしたい、普及させたいとの情熱にかられ、たまたま知り合った醸造学の権威で、酒類評論家の穂積忠彦先生より指導を受け日本酒の基礎知識を勉強するようになりました。

穂積先生はこうした事は酒屋が率先してやるべきなのに、菓子屋がやるとは面白いと激励され、全国各地の蔵元の紹介を受けるかたわら、先生が名付け親になり「日本の酒と食の文化を守る会」という名前の日本酒の愛好会ができたそうです。

当会はお酒の業務に関係していないメンバー、例えば、歯科医師、家電販売店主、大学教授、調理師、菓子・食品メーカー、流通業に勤務しているサラリーマン等12名で構成し、全くの素人で酒好きの集まりです。この事はお酒を選んだり、推薦したりする上で大変良かったと仰っていらしゃいました。

この会の目的の一つに「いいお酒の啓蒙と普及」というのが有り、なるべく多くの人々にいいお酒を知って戴くために、例会にはビジターの参加を呼びかけているということです。

現在会を開催する時にお呼びする方の割合は、常連メンバーが三分の一、女性が三分の一、新しく参加する人を三分の一と決め、何時も同じ人だけで楽しむのではなく、新しい方に案内することによりファンの拡大に気を遣ってきたとの事でした。

村田さんは、日本の食文化の頂点にたつのが民族の酒「日本酒」であり決してお酒だけが一人歩きするのではなく、常に日本料理との調和を考えなければいけないとっておられました。一方、お酒を広めるには女性を味方につけ、方々で日本酒の美味しさをお喋りしてもらおうと考えました。しかし、単なるお酒の会と言ったのでは女性は余り集まらないので、そこで有名な料亭でお料理を味わいながら日本酒ほ楽しむ会を催したところ、多くの女性が料理に釣られて参加され、「日本酒ってこんなに美味しいものだったの」と大勢の方が日本酒のファンになって行ったそうです。

こうした村田さんの活動に共鳴した蔵元さんが例会にお酒を提供して下さっておられますが、それらの蔵元さんの多くは昔からそれぞれ地方文化の担い手で、中には芸術家を援助された蔵元もあり、ある時はそれ等の蔵元さんの所蔵の芸術品を持参して貰い、その作品を鑑賞しながらそれぞれの蔵のお酒を楽しむ会を開催されましたが、この会を契機にお酒を単なる嗜好品としてではなく日本の食文化の頂点に立つものと位置づけ、只美味しいお酒やお料理を楽しんで戴くだけではなく、お酒と食の調和を考えながら集まってもらいその上皆様に来る限り日本の伝統文化に触れて貰えるような会にしたいと思ったそうです。

そして特に江戸文化を中心に古典落語、新内、車人形、狂言、幣間芸を鑑賞したり、ある時には摺り師による錦絵の刷りの実演に加えて、浮世絵の研究の権威、本院の小林教授の講演を聞いたり、時にはお揃いの浴衣で屋形船より東京湾で花火を鑑賞するような贅沢な会を催したり、いろいろな趣向をこらして会を続けておられます。

そして、村田さんがひよんな事から惚れ込んでしまった日本酒、それを広めるために何時も協力してくださる蔵元さんへの感謝の気持ち、お酒と食の文化に加えて日本の伝統文化を皆さんに知って戴こうという楽しいお話に、一同酔ってしまったインタビューでした。

[TOP](#)

キャンパス・ニュース・・・

「自分の頭で考える」訓練を

学習院女子大学教授 白井健策氏

社会に出てから40年以上もの間、新聞記者として働いてきました。学者ではないので研究業績なるものはありません。大学という世界そのものが、一種の異文化のようにさえ思えます。そういう人間が大学で何らかの貢献をしたら何ができるでしょうか。

これまでの仕事のほとんどは、天声人語を執筆していた期間を除けば、国際関係や世界の地域事情の報道、分析でした。海外にもしばらく住みました。国と国との関係を、政府間の交渉の現場で取材したり、各地の人々の生活ぶりの中に独特の文化のあり方を探ったりしてきました。

異なる文化の間でのコミュニケーションの難しさを実感しましたし、自国ではない社会にあって自分と家族が様々な意味で少数派として生きてゆくという体験から、少数派として暮らす人々のものの考え方や感じ方というものを実地に味わいもしました。

新しい世紀には、環境、開発、食糧、市民運動、人権、その他、国境を越える多くの問題が今までよりも切実さを増すでしょう。国際関係にも従来と違う要素が加わり、いわゆる教科書のない時代が始まっています。

そういう時代を生きる若い人々に、情報のあふれている中で、まず自分の頭で考える、という訓練をしてもらいたい。ぜひそのお手伝いをしたい、と考えています。

[TOP](#)

新刊紹介

書名：インとその看板のいわれ - イギリス・バークシャー州を中心に - バークシャー婦人会連盟編訳

著者：岡本 誠(39経)

学習院大学文学部非常勤講師

イギリスへ行けばパブやインに立ち寄ってみたくなる。黒光りした柱や梁も魅力だが、由緒ある看板が興味をそそる。

その看板の由来を地元の婦人会が丹念に調査した記録である。

(開文社出版 1,600円 税別 A5版177頁)

書名：響愁のピアノ イースタンに魅せられて

著者：早川茂樹(1国)

二・二六事件がゆかりの姻戚である迫水久常・松尾新一・瀬島四夫の三氏らが戦後間もなく創業し、40年にわたって手作りのピアノ製作に打ち込んだ技術者たちの誇りを伝えた記録。

(随想社 1,800円 税別 B5版254頁)

イースタンの音を聞くホームページは、[こちらから](#)

書名：私のフランス地方菓子

著者：大森由紀子(昭56仏)

フランスは地方こそお菓子の宝庫。決してパリではお目にかかれない珍しくて美味しいお菓子が沢山あります。この本は、著者がフランス各地方を歩いて見出したお菓子を50品、地方の文化や歴史を紹介しながら、美しい写真と丁寧な作り方で綴った、フランス地方菓子のバイブルです。

(柴田書店 2,500円 税別 B5変形128頁)

書名：わが心の故郷 アルプス南麓の村

著者：ヘルマン・ヘッセ、 編者：V・ミフェルス

訳者：岡田朝雄(34独)

「放浪の詩人」ヘッセが第二の故郷スイス南部の山村に独り住みついて文筆生活を始めた時代のエッセイ・詩・フィクションなどが収められている。編者が発見した小説断片「あるテッスーン人の履歴書」はこの本で初めてされたもの。

(草思社 2,500円 税別 四五版 445頁)

[▲TOP](#)

[■激変する地球環境](#)
[■第13回オール学習院の集い開催日決定](#)
[■光徳小屋秋の便り](#)
[■新刊紹介](#)
[キャンパス・ニュース・・・](#)

激変する地球環境

学習院女子大学教授 脇田 宏氏

私は初等科から大学、大学院と一貫して学習院で育てていただいた。地球化学を専攻し、地球のマントルや月の石の研究、さらには火山の噴火や地震予知の観測などを行ってきた。昨年、東京大学を定年退官し、学習院女子大学に移るのを契機に今日最も重要な問題となっている地球環境を中心テーマとすることにした。

地球環境は激変している。今年の天気をみても、春先の異常な暑さ、梅雨模様のまま夏はなく、台風の少ない秋を迎えようとしている。日本の天候不順も大変だが、世界各地は未曾有の大洪水や大干魃に見舞われている。異常気象は直ちに農業生産物や漁業の収穫、経済などにもひびき、不安感も大きい。

いよいよ、言われていた地球温暖化が目に見える形で現れてきたのだろうか。オゾン層の破壊、酸性雨、砂漠化といったゆっくりとした変化では目覚めない人類に、制御のきかない時代がどんなものなのかを見せつけているのであろうか。

地球には、陸と海、そして大気がつくり出す巧妙なシステムによって、生物の生存に適した条件が保たれている。しかし、人類による過度の社会活動がついに繊細な地球システムを壊しはじめているのではないだろうか。さらに、最近では環境ホルモン物質の影響など未知の大きな問題も生じている。

これらの現象は、あまりに多様で進行も早く、その原因を探り対策を考える暇もない。女子大学では、発生している事象を正確に理解し、今後の人間の生き方など価値観の見直しなどをふくめて、学生と一緒に考えていきたい。

[▲TOP](#)

光徳小屋秋の便り

山桜会（山岳部OB会）

小屋の前に小さな草原があります。夕方から夜にかけて鹿がやって来ます。2つの群で全部で7頭、昨年までは5頭でしたが、今年は2頭増えました。この草原でお産をしたのです。

鹿の声でピー、ピーピーと云う一定の鳴き声は「私の餌場だから他所のものは餌を食べるな」と云う警告音なんです。林のどこかで鹿がこちらを必ず見えています。キーンと云う鋭い声はびっくりした時に仲間に危険を知らせる音です。この時皆すごい勢いで林の中に逃げて行きます。秋になって落ち葉の林に、鹿の悲しそうな声が響きます。これは求愛の合図です。

小さな草原ですが、鹿にとって憩いの場です。仲間の安全を確認し合う集合の場でもあるのです。今は赤トンボが無数に飛んでいます。草は実を結び、葉も茎も硬く、鹿にとって食べづらいそうです。柔らかい葉をさがしては食べています。

鹿ばかりではありません。猿もやって来ます。ここに来る猿はいろは坂で餌をねだる猿ではありません。自然の中で生きています。

こんな事がありました。野ブドウの実が熟成し、食べ頃になって、一頭のボス猿がやってきました。実を食べて見て、未だ甘くありません。静かに林の中に去って行きました。5分位して枯れ木の折れる強烈な音がします。「ブドウの実を食べるな」と言うサインです。

冬になると此の草原が、初心者スキヤーに最適のグレンデになります。なだらかな斜面、豊富な雪、小屋からいきなり白銀の世界です。お子様も安心して滑れる自分達だけのグレンデです。今年は10月30日でクロスしますが、「来年は是非、この冬のグレンデを再開して欲しい」と云う方々が多いので、オープンして頂きたいと思っています。

11月中旬の雪の降る前に雪囲いの作業に入る予定ですが、管理人の市川さんは今冬より常住しま

す。冬期利用に関しては[管理課にお問い合わせ下さい。](#)

[TOP](#)

桜友会事務局だより・・・

第13回オール学習院の集い

平成11年4月18日(日)開催決定

新中・高等科校舎及び幼稚園園舎公開予定

毎年開催され益々賑わいを見せている「オール学習院の集い」の日程が上記の通り決定しました。

幼稚園から卒業生まで一同に会し、歌や音楽、各種催しに対抗戦、各種OB会、各種OG会が有り大変楽しい一日です。

特に初等科からOBまでの方々が一緒に演奏する音楽会は大変素晴らしいもので、他校では絶対真似の出来ないものです。

当日、同期会、ゼミOB会等も一緒に行いませんか。

もしご希望の方は、会場確保の事もあり、早めに事務局までお問い合わせ下さい。

なお、当日は、本年9月に竣工しました高・中等科校舎および来年2月竣工予定の幼稚園園舎が公開される予定ですので是非それぞれの新校舎・新園舎をご見学下さい。

[TOP](#)

新刊紹介

● 書名：起死回生の数学的発想

著者：吉沢光男(50数)

著者が、前書きで「数学以前の問題として重要な"ものの見方と考え方"についてできるだけ数式を使わずに楽しく表現した」と語っているとおり「くじ引きとジャンケン、どちらが公平か」「偏差値の限界」など、数学的な課題を平易に解説しており、エッセイとして読める内容になっている。

(扶桑社 1,300円 B5版195頁)

● 書名：日本の子供にどう英語を教えるか

著者：法師人辰娘(61米)・

坂本姫子(大阪・常盤短大講師)共著

イナイナイバーの遊びから始まって、お店やさんごっこ、ボール遊びなど、体を使った遊びと歌で子供と一緒に遊びながら「使える英語」を身につけさせる。

イラストを入れ読みやすい内容になっている。

(はまの出版 1,500円 B5版254頁)

● 書名：季の彩り(ときのいろどり)

著者：ぴんしゃん会同人

学習院写真部OB有志(代表・水谷晴彦・30経)8人のカメラマニアが同人結成15周年を記念した作品集・四季折々の自然との対話をレンズにとらえた「必見の書」

(光村印刷KK 1,000円 B5変形48頁)

● 書名：夢を語る役者たち

著者：構溝幸子(31政)

月刊誌「演劇界」に平成6年から約4年間連載した"ニュース性のある役者さんのインタビュー"にその後の歩みを加えてまとめたもの。大病を克服して15代目を襲名した片岡孝夫を筆頭に歌舞伎役者を中心にとりあげ、文化功労者に選ばれた永山武臣松竹会長(20高卒)の"歌舞伎は日本の宝"の言葉で終わる。33人の素顔を30年余演劇記者一筋に歩んだ著者が浮き彫りにする。

(演劇出版社 2,200円 税別 B5版 284頁)

● 書名：フランス悲劇女優の誕生 パリ 宮廷の華

著者：戸張規子(34仏)

悲劇女優の幕開けを告げたデュ・バルク、ラシーヌ悲劇を初演してその地位を確立したシャンメレ、伝統を後世に伝えたルクヴルール、この3人の女優の生きざまを通してフランス悲劇の流れと時代背景を現地で手に入れた資料を駆使して展開する。

(人文書院 2,100円 税別 B5版 229頁)

● 書名：東京12チャンネルの挑戦

著者：金子明雄(34経)

「私の母は幼稚園を経営していた、根っからの教育者である。大学で2年間留学し遊んでいた私は不肖の息子だった」と言う著者が東映ニューフェイス、TBSを経て「12チャンネル」(現在のテレビ東京)に入り同局の草創期から今日まで現場で活躍した時代を回顧した生气あふれる手記。

(三一書房 1,900円 税別 B5版 239頁)

● 書名：はじめての真空技術

著者：橋爪寛行(31物)・

飯島徹穂(工博)との共著

真空を作るために必要な容器材料などについて、短時間に学べるように配慮した技術書。

橋爪氏はこの他97年出版の機械用語大辞典(日刊工業新聞社)でも執筆を勤めている。

[TOP](#)



桜友会報

平成11年5月1日発行 第74号より抜粋

■ [夢をつむぐオペレッタ](#)■ [三角帽子のお屋根の幼稚園舎](#)■ [短大最後の卒業式](#)■ [新刊紹介](#)第17回経済学部講演会より
10年11月5日(木)於：記念会館

夢をつむぐオペレッタ

・・・オペレッタは大人の文化・・・

日本オペレッタ協会会長 寺崎裕則氏(31年政経卒)

オペレッタと歌舞伎

オペラは1598年に、歌舞伎は1602年に東西で期を一にして総合芸術が生まれた。東西の光を当て合うと、オペラも歌舞伎も本質は同じで、表現方法が違うだけだ。それらは、耳と目と心の悦楽がある。特に心の悦楽は、人を感動させることであり、人を感動させることはドラマなのだ。

歌舞伎は日本の文化の顔である。歌舞伎を追っていくと日本文化の特質が見え、オペラを追っていけばイタリア、ドイツ、ウィーンの文化が見えてくる。特に歌舞性(うたまいせい)の総合芸術を日本人は好む特性がある。

そこで、私はオペラ・オペレッタも日本の土に根づくのではないかと思い、特にオペレッタを根づかせる決心をした。

日本には大人が本当に楽しめるものが無い。私は知的大衆娯楽の代表みたいなオペレッタを、日本に大人の文化として育てたいと思い、日本オペレッタ友の会を1977年に作った。

オペレッタの魅力と魔力

オペレッタは愛の百科事典、恋の展覧会などと言う。

あらゆる恋愛が出てきて、非常に危険な関係をしながら、最後はちゃんと元の鞘に納まるようにできている。ハッピーエンドに向かって、人々はあらゆる知恵を出していく。一番分かり易くて、楽しくて、面白くてしかも深い。知的大衆娯楽の代表みたいなものだ。オペレッタを見ていると、明日の夢と希望と勇気とエネルギーが湧いてくる。まさに元気印の活力剤なのです。又、ミュージカルの元祖なのです。メロディの宝庫であり、そのメロディがものすごく美しい。何度聴いても何度歌っても飽きないものです。

大人の慰み

1855年にオッフェンバックによってパリで生まれ、1860年には"恋はやさしい野辺の花よ"の「ボッカチオ」で知られるスッペが、ウィーンで「寄宿学校」を作曲した。やがてヨハン・シュトラウスや「メリー・ウィドウ」を作ったレハールが出てくる。19世紀末から20世紀初頭はハプスブルグ家が繁栄し没落していき、新しい産業革命によって新興ブルジョアジーが生まれていった。その時代のみならず爛熟した大人の社会が生んだ"大人の慰み"の文化がオペレッタなのだ。

「濁った水はどんなに浅くても深く見える。澄んだ水は、底が見えるが底の深さは測り知れない。」オペレッタは澄んだ水なのだ。

21世紀はオペレッタの時代

戦後50年、日本は心を疎かにしてきたので、本物の文化が育っていない。文化は"心の福祉であり精神の糧"なのだ。

欧州では、文化は生活の中にあり心のオアシスなのだ。1945年ベルリンが破滅した時、一番最初に作ったのが、自分達の小さな掘立小屋と劇場だった。

芸術家は自分達の心を癒してくれる、夢を紡がせてくれる、明日の希望を勇気を自分達にもたせてくれると思っているからだ。文化は"心の福祉"という考え方で、国家の税金から文化にお金をだすことは、当たり前なのだ。一方、日本の欠点は、目に見えないものに対してお金を出さない

という事だ。公共投資に何兆円と出しても、文化に対してはお金を出さない。

夢を紡ぐオペレッタ

心のゆとりの時代、若者が、少年時代に「大人の世界っていいなあ」と思うような、大人の素敵なソサエディが生まれてくれば本当に幸せだなと思う。

それが国際的な信用に継がると思うからだ。

21世紀こそ、オペレッタの時代と思い、そうなってほしいと願って、日夜その様な本物を創り続けている。

皆様、機会があったら、是非良い物を観て下さい。最初に観るものは絶対に良いものでないと駄目です。本物でなくちゃ駄目です。

[TOP](#)

[キャンパス・ニュース](#)・・・

短大最後の卒業式

・・・使命を全うし、次世代への礎を作る・・・

女子大学教授 湯本和子氏(1回生)

'99年3月19日、学習院女子短期大学は48回卒業生774名を最後に、1回生以来22,525名の卒業生を送り出し、その使命を全うした。この式場に、1回生を送り出された斉藤道香先生も出席下さったが、感慨深げなご様子であった。私も卒業生の名前を一人一人呼び上げながら、発展的転換ではあっても短期大学の名前が消えて行く淋しさと申し訳なさをしみじみと感じていた。

'52年3月26日、目白の大講義室で、学習院大学文政学部、短期大学部、高等科、女子高等科合同卒業式が行われた。厚子内親王(池田夫人)が短大、皇太子殿下(現天皇陛下)が高等科を卒業なさり、昭和天皇、現皇太后両陛下も御臨席頂いた。私達短大第1回卒業生76名は、女性の礼装であった紺のスーツ姿で卒業する喜びと社会人として出発する緊張感に満ちて出席していた。おもえば半世紀の短大の存在は次世代への礎であった。

・・・学び舎は永遠に・・・

小野寺由里子氏(第48回卒業生)

平成11年3月19日は、天候に恵まれなかったものの、短期大学最後の卒業生として、無事に卒業式を迎える事ができました。

私共の短大生活は「雨で始まり、雨で終わる」といった言葉がふさわしいと思います。卒業式では、2年前の期待と不安の入りまじった雨の入学式の記憶がよみがえり、改めて2年間の短さを実感し、ことさら学習院女子短期大学を去りゆくことに言いしれぬ寂しさを覚えました。私共は入学した当初から、短大の「最後」という使命を背負っていました。短大がなくなる事に対して複雑な心境でもありましたが、どの先生方も「短大卒業生として誇りを持ちなさい。そしていつでも胸をはって母校に遊びに来て下さい。」と温かいお言葉をかけて下さり、とても嬉しく思いました。

女子大学という名称に変わっても、やはり戸山キャンパスが母校です。是非、短期大学の良い面を受け継いで、ますます発展していくことを願っております。

・・・短大最後の卒業式に招かれて・・・

18回生A.T.

小雨けふる3月19日、第48回卒業式に、卒後30年の18期生19名が参列させていただきました。

奇しくも、最後の短期大学生の卒業ということで、喜びの中に一株の寂しさの混じった私達でしたが、鮮やかな彩の袴を着た晴れやかな顔の卒業生と、短期大学の伝統を踏まえて後輩としてしっかり受け継いでゆく、女子大学一期生の力強い送辞を述べる姿に、発展的に改組される現実を実感することができました。列席された満員のご両親方と共に、巢立たれる卒業生に幸多かれとお祝いしました。

式後、早川東三学長、工藤幹巳先生、斉藤道香先生、岡啓次郎先生との懇談会で、在学当時の思い出を語りながら、最後は女子大学の繁栄を祈りつつ散会となりました。

[TOP](#)

三角帽子のお屋根の幼稚園舎

昭和38年に設置されて以来の学習院幼稚園舎が新しくなり、本年2月に昭和寮跡地の仮園舎からお引っ越ししました。

新園舎は鉄筋コンクリート造二階建約千五百平米で、吹き抜けの玄関ホール中央の大黒柱の上には三角帽子のお屋根が乗っています。一階には年少・年長二組の保育室と二階まで吹き抜けの明るい遊戯室が、二階にはお泊まり保育もできるみんなの部屋と園長室、教員室、保健室などがあります。園庭の周囲には築山のおすべり台、ブランコ、鉄棒などが配置されています。隣接の中高等科校舎がなくなり、とても明るく可愛い幼稚園になりました。

[TOP](#)

新刊紹介

● 書名：一週間でわかるJavaScript

著者：福島靖浩(平2心)

ホームページにインタラクティブな要素を付け加えるスクリプト言語「JAVA Script」。本書では、難解に見える JAVA Script の基本を、一週間のカリキュラム制で無理なく解説。企業ホームページの作成経験豊富な著者が、すぐに使える楽しい例題でちょっと便利なテクニックを紹介しします。付録CD-ROMに本書で使う画像などの素材とソースコード、動作確認用のブラウザ（Internet Explore 4.0とNetscape Navigator 4.06）を収録。ハイブリッドでWindowsとMacintoshの両プラットフォームに対応します。

(2,100円・税別 B5版変型版)

● 書名：初めて海外からゲストを迎えるときに読む本・・・国際ビジネス入門

著者：山田 修(48国)フィリップスライティング(株)代表取締役社長

国際ビジネスの発展と普遍化で以前では考えられなかった部門の人や職位の人たちが日本で海外からのビジネスパーソンと会う機会が増えている。ゲストの来日から商談の成立まで、実践に役に立つ作戦が具体的に書かれている。

((株)アルク 1,480円・税別 A5版237頁)

● 書名：家族崩壊・・・ひととは独りでは生きられない

著者：久保田信之(34政経)学習院女子大学教授、東京家庭裁判所家事調停委員

今「家庭」「家族」はいったいどうなってしまうのか？ ドッキリするような、でもそれが現実であるいろいろな例をあげて分析研究されています。どうしたら良いか真剣に考える起爆剤になってほしいと切に願って書かれた本です。

(日本教文社 1,762円・税別 B5版279頁)

● 書名：おじいちゃん戦争のこと教えて・・・孫娘からの質問状

著者：中條高德(27政)

父親の転勤でニューヨークで高校生活を送っているお孫さんから来た手紙、それはアメリカ史の授業の中で戦争体験のある方に話を聞こうということになって出た16の質問状でした。陸軍士官学校出身の著者が孫娘に率直に真摯な姿勢で答えてゆきます。

(致知出版社 1,400円・税別 B5判258頁)

● 書名：チンチン コバカマ

著者：久高明子(36哲)

退職を機に教職に在った間に書きためた童話の中から10編をまとめたもの。この本の書名になったチンチンコバカマという妖精たちの作品は最後の卒業式の出来ごとが妖精たちによって描かれている。

(新風舎 1,200円・税別 B5版 95頁)

● 書名：蘇る中世の英雄たち・・・「武威の来歴」を問う

著者：関 幸彦(50史)

伝説化した英雄・・・道真、将門、田村麻呂、頼光、為朝、義経・・・をとりあげ、歴史上は敗者とされた武人が伝説を介して歴史に蘇る過程を近世江戸期の文芸作品の中でどう扱われているかを探る。

(中央公論社 660円・税別 中公新書 212頁)

● 書名：ちょっと言いにくいことですが。・・・体験的地方自治

著者：森 昌也(6高文甲卒)

著者は東大を経て静岡県島田市の市議・議長・市長・県議と政治の要職を歴任した。

「地方議会は少数精鋭でなくてはならない」「地方自治行政は納税者の側からものを見よ」など、地方自治についての的確・簡潔な発言が盛られている。

(静岡新聞社 2,000円・税別 B5版 223頁)

● 書名：もうひとつの聴診器

著者：佐藤 蕃(24旧高)

著者は医者であり、故星野立子に師事した俳人でもある(曾々祖父は順天堂創始者)。八丈島での患者との心の触れ合いが感動的に描かれており今様「赤ひげ」といったところ。50余年にわたる句作の成果も披露されている。自家本ですが寄贈を受け事務局に備え付けてありますので是非一度ご覧ください。

(六甲出版 B5版 352頁)

[▲TOP](#)

桜友会報

平成11年11月1日発行 **第75号**より抜粋

■ [学生寮の四季](#)

■ [幼稚園新園舎落成記念品募金について](#)

■ [学長就任1年](#)

■ [新刊紹介](#)

■ [清明寮開寮50周年を祝う会](#)

学生寮の四季

桜友会スカラーシップ第1回生 平井敏雄

94年3月ドイツ文学科卒、97年ドイツ文学専攻博士前期課程修了・同年後期課程、桜友会スカラーシップ制度第1回生として昨年9月からバンベルク大学に留学

研究テーマは「古高ドイツ語統語論」(特に分詞の統語的機能に関して)これまでに既に上級ゼミでドイツ語歴史的語彙論について、また博士論文・教授資格試験論文等執筆中の学生ゼミで研究中の論文の研究発表を行う。



ドイツの大学は1年が2学期に分かれています。バイエルン州にあるバンベルク大学では、冬学期が始まるのは11月からですが、大学が主催する学期前の3週間のドイツ語研修コースに参加するため、私は昨年9月の末にバンベルクに参りました。日本を出発する際には、まだ真夏のような陽気でしたが、ドイツに着いてみますと、すでに木々の葉は色付き、北の国へ来たことを実感させられました。

銀行口座の開設、健康保険の契約、外国人登録などの諸手続を、留学生課の案内に従って済ませ、予約してあった学生寮へ向かいますと、建物の入口の所に何やら人だかりが、寮の管理人さんが行方不明で、新しく入居する学生が何人も、大きな荷物を抱えたまま、入口にぼんやりと佇んでいるのでした。私もさっそく仲間入りです。

ドイツ人の他、アメリカ人、スペイン人など、いろいろな国の学生がいます。中には、もう2時間以上待っているという学生もいました。結局、管理人のK氏はそれからさらに2時間ほどして、夕方になってからやっと現れ、皆やっとこさ自分の部屋に入ることができました。このK氏大変気さくで親切な人なのですが、ほとんど事務所は留守で、こんなことは特別な事ではないことが後で分かりました。

部屋はお世辞にもきれいとは言えない殺風景なものでしたが、とにもかくにも、1年間住む自分の「城」です。必要なものを買い揃えなどしているうちに、愛着こそわかないものの、まあ、慣れてはきます。部屋は個室ですが、キッチンとバスルームが隣と共用の、半二人部屋といった形態で、ルームメイトのイタリア人フランチェスコとは、すぐに大変仲良くなれました。

11月に入ると大学の授業開始です。ドイツ語ゼミナール・中世写本学ゼミナール等を受講し、12月にはゲッティンゲンへの研修旅行に参加"ドイツ語辞典"の改訂作業現場を見学するという貴重な体験をしました。

大忙しのうちに、気が付くともうクリスマスで、灰色の薄暗い町には、クリスマスツリーやさまざまなオーナメントの灯りが美しくともり、ゲリュウワインと呼ばれる、甘い熱いワインのグラスを手にした人々の白い吐息と話し声が、広場を満たすようになります。

同居人のイタリア人フランチェスコは寒さが大の苦手な人で、冬の間はいつでも暖房を全開にしています。その結果、我々の部屋は真冬でも気温は25度を越え、遊びに来る友達も皆、「まるで夏のローマだね」。冬中、部屋の中では半袖のTシャツ一枚で過ごしていました。ひと部屋隣の、アイルランドからの留学生はメイヴは、自分の部屋の暖房は一切入れないと言っています。「だって、フランチェスコの部屋から熱気が流れてきて、暖房を止めて、窓開けてても、暑くてたまらないんだもん」。ヨーロッパの北と南との、期せずして興味深い邂逅でありました。

多くの詩人たちが讃えている、世にも美しいドイツの春が過ぎると、梅雨のないこの国には、意外に早く夏が訪れます。指導教授より5月から夏学期にさらに上級の博士論文コースゼミナールに参加し研究発表するよう誘いをうけました。

3ヶ月の夏学期はあっという間に終わり、7月も末になると、気温は連日30度を越えるようになります。日本のように湿気が高くなく、からっと晴れているのでずっと過ごしやすいとはいえ、日差しの強さはかなりなものです。町には濃い青空と花々の織りなす原色の色彩がきらめき、どっと押

し寄せる観光客たちも、肌も露わな服装で短い夏の日差しを楽しみます。土曜の午後ともなると、レグニッツ川や運河沿いの遊泳場には、バンベルクの老若男女が大挙して繰り出し、大人は日光浴、子供はボートや水泳に興じています。隣のフランチェスコなどは、目を丸くして、「ドイツ人は動物だ」と言います。「イタリアでは、運河=ネズミ」なのだそうで、「運河で泳ぐなんて、不潔きわまりない。信じられないし、人間のすることじゃない」。ヨーロッパにも、さまざまな文化があるようです。

最後になりましたが、このような留学体験を得ることができ、桜友会スカラーシップの名誉ある第1回奨学生に選んで頂いたことに、大きな感謝の念と誇りを抱いております。帰国後、桜友会の皆様へ改めて留学生生活を報告申し上げ、御礼を述べたく、心より念じております。

TOP

キャンパス・ニュース・・・

学長就任1年

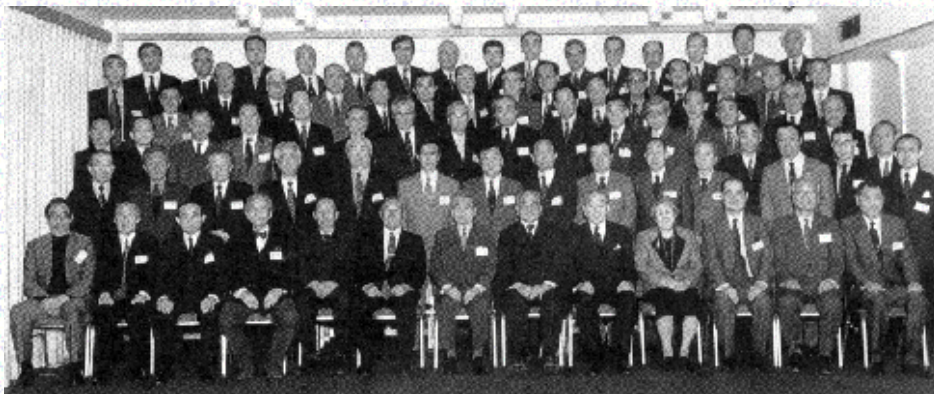
女子大学長 早川東三



近藤不二前学長が亡くなられた後を受けて、女子大学長に就任したのは今年の今頃。はや1年になる。近藤さんは業半ばにして世を去っていかれたわけで、さぞご無念だったろうとお察しする。大学に限らず、立ち上がりの時期の組織というものは、日々がすべて初体験であって、一日たりとも戸惑わぬ日はないと言っている。その中で、女子大創設に携わった方々、いま女子大を支えておいでの教員、職員の皆さんの夢と理想をどう実現するのか、独自性はどのように出していくのか、おのが力に余る問題と取り組んで、それ以外のことに眼をくれる暇も興味もない。先般、武道館で開催された私大入試説明会で、女子大のブースに座ってみた。大学としては新参中の新参、受験生たちが興味を持ってくれるか、いささかの不安はあったが、時間帯によっては立って相談の順番を待つ者がいる程の盛況に正直ほっとした。戸山キャンパスで開いた相談会にも、暑さのなか意外なくらい多数の参加者が集まった。短大時代の輝かしい歴史の余光か。それを大切に、さらに努力を重ねたい。

TOP

清明寮開寮50周年を祝う会



去る4月4日、麻布国際文化会館において、久し振りに清明寮関係者(清明会、サモア会、清星会)の集いがありました。

清明寮は、昭和24年4月、天皇陛下が皇太子時代、高等科に進学された折、中等科の光雲寮のあとを受けて、小金井の地に開設され(のちに目白に移転)、以来陛下には学習院大学御終了の時まで、通算7年の永きにわたり在寮なされたのでした。また2年下級生の常陸宮殿下も同様に高等科、大学を通じ御在寮になりました。(昭和33年3月、常陸宮殿下の御卒業をもって閉寮)

この間両陛下と寝食を共にした寮生は123名、歴代9名の舎監の先生、安倍院長、小泉信三ご教育係など多くの指導者の薫陶の下、夫々に多感な学生時代を過ごしました。

今年は陛下御即位10年、御成婚40年のお目出度い年にも重なり、全期間にわたる関係者70余名が参集、陛下には、各出席者と同様、名札を胸に一寮生に戻られて、2時間余に及んだ懇親パーティ

に最後まで御臨席賜わりました。戦後なにかにつけ不自由な時期、特に小金井は質素な木造の寮でしたが、同じ釜の飯、同じ風呂の湯を共にし、前途の希望に燃えていた紅顔の美少年(?)時代の写真集に見入りながら、いつまでも名残りは尽きませんでした。

野村雄三記(昭31政)

▲TOP

幼稚園新園舎落成記念品募金について



本年2月4日竣工しました幼稚園新園舎落成を記念して、昨年11月より、幼稚園卒業生・父母のご協力により、募金活動が行なわれておりました。その結果、かねてより高川園長が「幼ない時より、本物の音を聞かせてあげたい」との希望により、グランドピアノ(ドイツ/ハンブルグ/スタインウェイ社製A-188型)・アンティークオルゴール(1890年代ドイツ/ポリフォン社製104型)各一点を寄贈することができました。そして5月22日「落成記念の集い」にて、初等科生らにより、おひるめ演奏会が行われました。



▲TOP

新刊紹介

● 書名：34のハーブメルヘン

訳者：岩淵達治(名誉教授)、虎頭恵美子(39独)

オーストリアのメルヘン作家テゲットホッフの作品の翻訳。34のハーブ(香草)の知識に加えて、精密でメルヘンチックな挿絵が魅力的。

((有)あむすく 2,600円・税別 A6版190頁)

● 書名：ふたりのロタ島動物記 オオコウモリ鳥の楽園ガイド

著者：大沢夕志(54高)、大沢啓子

幻のオオコウモリ・スープに導かれてロタ島を訪れた動物好き夫婦の自然観察旅行のエッセイ。

(山と溪谷社 1,500円・税別 A5版95頁)

● 書名：四季の恋の物語

著者：中条志穂(平4仏)、松岡葉子・山岸貴久美との共訳

フランスの映画監督・脚本家エリックロメールの作品、春のソナタ・冬物語・夏物語・恋の秋、のシリーズ4本の脚本をまとめたもの。

(愛育社 1,800円・税別 B5版275頁)

● 書名：成熟のためのこころの名作童話

著者：植西 聰(44経)

悩みや不安は本人の考え方次第で解消できる、と考える著者が、赤ずきん・白雪姫など10の童話の中にそうした発想の転換のヒントを指摘してみせる。

(朝日ソノラマ 1,680円・税込 B5判225頁)

● 書名：トキワ荘実録 手塚治虫と漫画家たちの青春

著者：丸山 昭(28哲)

講談社に入社したかけ出しの著者が「手塚番」としての悪戦苦闘をへて、若き日の石ノ森章太郎、赤塚不二夫、水野英子などを育て、彼等の夢の砦・トキワ荘をありのままに描いた回想記。

(小学館 500円 文庫版 242頁)

● 文集

著者：尾上浩一(35経)

富士通BSCの社長を勤める著者がまとめた自分史。終戦の年、集団疎開していた著者が両親と交わした手紙。少年期から青年期にかけての作文、企業人としての横顔など。

(尾上企業出版事業部 私家版 B5版 543頁)

[TOP](#)

桜友会報

平成12年5月1日発行 第76号より抜粋

■ [桜友会80年のあゆみ](#)

■ [第14回 オール学習院の集い開催](#)

■ [タイ留学の一年](#)

■ [新刊紹介](#)

タイ留学の一年

桜友会フェロシップ第2回生 木下友紀

97年4月学習院女子短期大学国文学専攻入学、桜友会フェロシップ制度第2回留学生として、昨年5月タイ国立チュラロンコーン大学経済学部に入学生タイ語を修得、日・タイ両国の伝統文化を伝え合うことを目標としている。



クラスメートと前列中央筆者

🌸 憧れのタイに、でもホームシックに

高校の卒業旅行でバンコクに行ってから、タイのとりこになった。短大卒業後はタイに留学したいという思いから、失礼を承知でバンコク桜友会の相馬豊胤先生にご連絡した所、なんと先生は幸運にも憧れの「タイの東大」チュラロンコーン大学の博士でおられた。ますますタイへの留学に運命的なものを感じ、何度となくタイと日本を往復し、ついに入学許可を頂き、思わぬ幸運に信じられないような気持ちでのスタートだった。しかし何故か去年の五月に来タイしてから数ヶ月はホームシックで日本の夢ばかり見て、両親との電話で泣いてしまったことも少なからずあった。けれども、「いきなり一人暮らしは不安でしょうから」と快く私を居候させて下さった、タイ王室の日本語通訳のプサディさんにはげまされ、なんとかこちらの生活に慣れ、いつもの元気を取り戻すことができた。

🌸 中国系タイ人に見られて

大学は六月から始まり、経済学部には外国人はいることはいるようだったが私のクラスは全員タイ人であった。もちろん授業も全てタイ語。語学学校の先生に毎日タイ語を習ってはいたが、まだ日常会話もままならないのに経済用語となるとさっぱりである。とにかく神妙な顔で座っていることしかできない。(情けないことに未だに大学の授業は大変難しい)けれども大学というところはまた、学生たちと話をする絶好の場でもある。学生たちはほとんどが飛び級しており、四年生でも一九か二〇の子が多い。私はは当時二〇だったのでアドバイザーの先生が四年生のクラスに入れて下さった。歳も近いのですぐに友達ができ、六月末の果物の産地への研修旅行で完全に皆と仲良くなれた。中でも「私はユキのマネージャーだから」と何かと世話を焼いてくれるブンとは一番の親友になった。

毎週金曜日、大学には市場が出る。食べ物を始め洋服や時計などの小物、植木までが所狭しと並び、人で一杯である。そこでココナッツアイスやタイのかき氷を買って夕暮れまで友達とおしゃべりをしたりする。又タイの大学には概ね制服があるので、それを着ていると私も中国系タイ人に見えるらしく、お店の店員さんから容赦ない早口のタイ語が飛んでくる。どこまでタイ人のように話を続けられるか、ゲームのような最近の楽しみのひとつだ。

タイ語というのは発音が命の言語なので、いくら学校で勉強しても実際に話してみなければ憶えられない。始めはタイ語英語半々だった友達も、だんだんとタイ語のみで話してくれるようになり、時には私が日本語を教えたり日本からの留学帰りの学生と日本語で話したりして、さらなる語学の上達につながっている。

🌸 王妃主催の晩餐会に招かれて

七月から続いた雨季もあっという間に過ぎ、寒季(といっても暑い)が訪れた頃、日本を代表するデザイナーの方々一行がタイの王妃主催のシルクフェスティバルにシルクを買いに来るので、そのお手伝いをしないかと誘われた。私達は王妃のお客様ということでホテルも食事も特別待遇。移動の際には先導車付き。さらには離宮での晩餐会に出席させて頂くという好機にも恵まれた。シルクのドレスとショールに身をつつみ、ガチガチになりながらもタイのVIPと肩を並べて独特なお辞

儀で王妃に御挨拶をした。王室が絶大なる権力を持つこの国では大変な名誉である。この旅は生涯忘れられぬものとなるだろう。



すっかりタイに馴染んで・・・

バンコクに住んで九ヵ月。プサディさんの家から独立し一人暮らしを始めて七ヵ月。早いもので今年度の授業も全て終了した。仲良くしていた友人たちも卒業してしまうけれど、また新たな気持ちで新年度を迎えたい。

屋台で大好きなソムタム（パパイアのサラダ）を食べている時、毎日六時に流れる国歌を一緒に口ずさんでいる時、近距離を歩かずついバイクタクシーに乗ってしまう時、日本から来た友達に走らないと着いて行けない時、「ああ私はもうすっかりタイに馴染んでいるんだなあ・・・」と感じる。又、この度学習院とチュラ大の提携が正式に結ばれ、それに先駆けて学ばせて頂いていることを、心から誇りに思う。そして第二回フェローシップ奨学生に選んで下さった桜友会の皆様、私を大学に推薦して下さい、その後も何かと面倒を見て下さっている相馬先生、私のタイの「お母さん」であるプサディさん、食中毒で苦しんでいる私の所へおかゆを持って訪ねて来てくれた親友のブン、そしていつでも私を応援してくれる両親、私にこの素晴らしい留学生活を与えて下さっている全ての方々に感謝しつつ、これからの生活をさらに充実させていきたいと思っている。

[TOP](#)

第14回 オール学習院の集い開催

糸ざくらはかなき色の寒さかな 千鶴（俳句の会より）

平成12年度の「オール学習院の集い」は、4月16日(日)、前日の雨も上り4月にしてはやや肌寒い1日でしたが、残りの桜の下、約7,100余名の人々が目白の構内に集い大いに楽しみました。

朝9時半の記念植樹で始まり、学習院創立百周年記念会館正堂において開会式が行われ、島津院長、北白川実行委員長の挨拶に続いてチャリティーラッフルの寄付金が賀陽桜友会会長より「日本点字図書館」に贈呈されました。引続き「学習院の歌の集い」、幼稚園からOB管弦楽団までの「オール学習院大合同演奏会」、カントリーミュージックの演奏、そして桜友会創立80周年記念チャリティーコンサートが開催され、チェリストの溝口 肇氏の演奏に酔いしれました。館内では常磐会による盆石、華道等の「四科展」、写真、書道、ポストカード展、お茶会、お香の会が行われ、似顔絵書きに人気がありました。恒例のお子様乗馬、応援団のリーダー公開、剣道都の野試合を始め各種親善試合、草上会による「花見茶屋」、お子様に人気のどぜうつかみ、ヨーヨー釣り、そして櫻友クラブ主催の「利き酒会」は人気の的でした。80歳以上の方の桜寿会は益々お元気で、学徒出陣の碑の前では当時の関係者が集い、乃木館では囲碁に興じ、各教室では経済学部会、ゼミや各部OB・OG会等が開催されました。



TOP

新刊紹介

著書・ザ・キンキー・ファイル

監修・小松崎健郎（H1史）
定価 3000円＋税
発行所 (株)シンコーミュージック

大英帝国の誇り、永遠のロックバンド、キンキーの名前は知っているも音楽は聴いた事がない方達へのガイドブック。

著書・「経済、経営を楽しむ35のストーリー」

編者・学習院大学経済学部
定価 1600円＋税
発行所 東洋経済新報社

日本人の生活を大きく変えたコンビニを取り上げ豊かさの中から生れる環境への負荷を見つめ、人生五十年と云われた言葉も死語となった今日の年金制度を考える等、正しく因果関係を推論し、自分自身の生きる環境を整備する為の経済、経営に親しむ書と云える。

著書・「淡淡友情」

著者・平野久美子（47仏）
定価 1500円＋税
発行所 小学館

副題「忘れられた日本人」の物語と有る様に日本人が失いつつ有る日本魂を呼び起し、私達への警告書とも云える。

著書・武士の誕生

著者・関 幸彦（50史）
定価1120円＋税
発行所 NHKブックス868

古代から中世にかけての転換期に坂東の史的風土を踏まえた武家政権の誕生は「日本国」を生み出す原動力となり現代社会の原点を採す一助となり得る書。

著書・正午の茶時へようこそ

著者・小堀宗以(54法)
定価 1800円+税
発行所 (株)アセット婦人画報社

夏は涼しく冬は暖かと当り前の事を身につけてこそ自分自身の鋭敏な感性を呼び覚ます良い機会と説く著者の心が伺える。

● 著書・やるね!の営業ウーマン

著者・宮崎百合子(56経)
定価 1000円+税
発行所(株)税務経理協会

自己満足ではなく、周りの事を考える感性が必要な営業マン。自分自身を売れと説く。

● 著書・「本朝文粹の研究」 「校本篇・漢字索引篇」

編者・土井洋一(日文科教授)、中尾真樹(63国)
定価 66,600円
出版社 勉誠出版

弘仁、長元(810~1037年間の漢詩文432篇の研究)

[TOP](#)

桜友会報

平成12年10月1日発行 第77号より抜粋

■ 歴史探訪(3)「学習院の女子教育」

■ 違いを認め、違いを尊重する

・・・特別専任教授 平野 次郎

■ 昭和こそわが世代

・・・渡辺 忠三郎（昭23旧高卒）

■ 新刊紹介

歴史探訪(3)「学習院の女子教育」

桜友会員の男女比をみると多分女性の方が多いものと推定されています。本年度の在校生でも女子の方が多くなっていますから、学習院が女子教育に力を注いでいることは明らかです。その歴史をみてみましょう。

🌸 学習院から華族女学校、学習院女学部から女子学習院へ

護持院ヶ原といわれていた神田錦町に明治10年に開業した学習院には女子教科として女子小学があり、明治18年には女子教育を専門とする華族女学校が創設された。

皇宮付属地の四谷区尾張町（現在の初等科）に創設された華族女学校は明治20年には御料地の麹町区永田町の新校舎に移転した。（現在の参議院議長公邸、昭和18年に華族女学校遺蹟碑を建立）

華族女学校は明治39年には学習院に合併され学習院女学部となったが、大正7年に女子学習院として再び独立し、青山練兵場跡地の赤坂区青山の新校舎に移転した。（現在の秩父宮ラグビー場）

🌸 二重学年制

大正9年から昭和6年までは二重学年制（4月入学春組と10月入学秋組）をとり、特に少女期の発育の差を広げないようにしていた。

🌸 仮校舎から雪中の進駐

女子学習院は昭和20年に大空襲により校舎が全焼し、目白の徳川義親侯爵邸を仮校舎とし、その後音羽の護国寺の月光殿や境内の音羽幼稚園なども使用していた。（仮校舎として使用した徳川邸本館はその後八ヶ岳高原ヒュッテとなった）

昭和21年3月に牛込区戸山町の近衛騎兵連隊跡地を新たな校地とすることにした。この広大な敷地と兵舎跡が無法集団に占拠されないうちに、早春の残雪の中を徳川邸から生徒達が行進し、将校集会所（女子部では礼法室として使用）に「女子学習院」の校札が掲げられた時、教職員の中から期せずして万歳の声が挙がったという。女子部ではこれを「雪中の進駐」と言っていた。

🌸 そして再び学習院へ

昭和22年に学習院及び女子学習院は一体化して、私立の財団法人学習院となった。

四谷の初等科は男女共学とし、戸山の女子中等科、女子高等科は別学となった。女子中・高等科は女子部と称していたこともある。

なお（男子）中等科は昭和24年より32年まで戸山にいた。

ここまでは主として初等中等教育です。

🌸 女子教養学園、女子短期大学、女子大学も

学習院となり高等教育も充実され、昭和22年より27年まで女子教養学園を下落合の昭和寮に開設した。

昭和25年に戸山校地に女子短期大学部が設けられ、28年に女子短期大学となった。なお、女子短期大学は、平成13年には最後の卒業生を送り出す予定である。

平成10年には女子短期大学とは別に新たに女子大学が設けられた。

🌸 幼稚園は共学

明治27年には華族女学校に付属して男女共学の幼稚園が設けられ、男子でも女子学習院に通園した。この幼稚園は昭和19年に保育を中止した。

学習院の男女共学の幼稚園は昭和38年に豊島区目白に再開園された。

🌸 華族女学校の笠石

永田町の旧華族女学校正門が昭和11年に撤去されることになり、女子学習院では門柱の笠石を譲り受け青山校舎の通用門の門柱に設置した。



御歌碑（女子教育の精神）

明治20年に皇后陛下（昭憲皇太后）より華族女学校に御歌「金剛石」「水は器」が下賜され、昭和10年の開校五十周年記念祝典でこの御歌碑が建設された。校庭の築山に建てられ、当時は正面を通過する際には屈体、恭敬のこととされた。

大正12年には皇后陛下（貞明皇后）より御歌「花すみれ」が、昭和9年には皇后陛下（香淳皇后）より御歌「月の桂」が下賜されている。

これらの御歌は学習院女子教育の精神を示している。



女子部正門

明治23年に建てられた四谷の学習院の正門はその後鐘ヶ淵紡績に払い下げられ同工場の門となっていたが、これを買い戻し一時目白の御榊壇脇に置かれていた。昭和25年に戸山校地に移設し、女子部の正門とした。

明治初期の鑄鉄製の門として現在国の重要文化財に指定されている。

[TOP](#)

昭和こそわが世代

波乱多き戦前戦後を学習院で・・・渡辺 忠三郎（昭23旧高卒）

そして今・・・ピアノ一途に エンターティナーとして生きる

昔は皇族、華族、士族、平民という身分が定められ、私は平民でしたが母方が華族であった為、母方の叔父、叔母そして従兄弟、従姉妹たちの殆んど全員が学習院の卒業生または在校生でした。私は丈夫育ちだったことが幸いして初等科6年間無欠席という褒賞を頂きましたが、これが中等科1年まで継続、悪ガキに転じた中等科2年生からは多欠席の連続でした。学習院はご存知の如く皇室のご庇護も厚く、われわれは「皇室の藩屏たれ」の精神を養われました。同時に乃木希典院長時代から引き継いだ乃木イズムも濃厚で「君たちは着ている服に穴があいていることを恥らう必要はない。恥らうべきは修理されずにほころびたままの服を着ていることである」の教えは今に至るも名言なりと信じています。

中等科4年の秋からラグビー部に入部、戦時色が次第に濃厚になる中を比較的気楽な学生生活を過ごしました。昭和19年高等科に進んでからは益々悪ガキ度が進み、授業をサボったり、学校をスケタリ（語源はエスケープ）、友人宅で麻雀に興じ、その足で再び学校へ戻ってラグビーの練習に励んだり、生意気な奴を「血洗いの池」に呼び出して池に殴り落としたり等々。

ところが戦況は次第に悪化し、どうせ死ぬなら一発でも敵に打ち込んでから死にたいと願い、採用年齢ギリギリの9月に海軍予備生徒を志願したのです。海軍生活を終戦で終えて再び目白に戻りました。昭和22年ごろから学生バンドを編成し、輔仁会大会にジャーリングバンド（学生のアマチュアバンド）で出演したり、黒田一夫、池上利光などと占領軍キャンプ巡りを始め、受験よりもバンド生活に力を注いでいたが、どういう風の吹きまわしか東大農学部林学科に入学しました。授業は1年の1学期のみ、ノート、教科書は一冊も無し、但しジャズの道は皆勤という経過を経て昭和27年春大学を卒業してしまっただけでした。

当時はパルプ業界が大盛況で、私の林学科の仲間は飛ぶようにパルプ会社に内定。大学とは縁の薄い私は就職して恥をかくより東京近辺で就職したいと思い、ラジオ東京（今のTBS）に入社し音楽番組の制作担当、8年後から営業、ネットワーク、経営企画といろいろの部門を歩きました。その間TBSの諒解を得て昭和54年ごろから昔の仲間と音楽活動を再開し、宮仕えとピアノ弾きの二足のわらじをはきこなし、平成4年からはピアノ一途で今日に至っています。

顧みれば、昭和こそわが世代ですが、波乱多き戦前戦後を学習院で過ごし、高度成長からバブルまでを社会人として、またバブル破裂以後をピアノ弾きとして生きてきた、否、生きていくわけです。これを支えてきたのは、一に健康、二に友情、三に開運ということだと思います。両親、家族、学習院関係者、友人たち、会社生活での緒諸先輩や同僚たちに心から感謝を捧げたいと思っております。

帝国ホテルのランデブーバーでピアノを弾いている渡辺さんをお訪ねした日は、一人でビールを

飲みながら演奏を楽しんでいる外国の女性や、家族連れ、若い人のグループが、グランドピアノの周りを囲んでいた。

リクエスト中心の演奏は、映画音楽、ジャズ、ハワイアンのほか童謡のサービスまであって、アットホームな時が流れている。ひな祭、五月の節句の歌や、その季節に応じた歌など演奏もされるとかで、レパートリーは、おおよそ二千曲、「ミレニアムですから」と渡辺さん。

休憩なしの2時間40分の演奏はエンターティナーにこだわる心意気が伝わってくる。学習院を愛し、「当時のよき時代の学生気質を音楽を通して伝えたい」と云われ同窓生が来られたら「信州男児」や「大瀛の水」をアレンジして弾きますとおっしゃっていらっしやいます。

ランデブーバーでのランデブーを楽しんでは如何でしょう。(・Y)

プロフィール

大正15年(1926)生まれ

昭和8年(1933)学習院初等科入学

〃 20年(1945)海軍予備生徒志願

〃 23年(1948)学習院高等科卒業

〃 27年(1952)東京大学農学部林学科卒業

〃 28年(1953)ラジオ東京(TBS)入社

〃 56年(1979)同社定年退職

〃 〃 東通入社

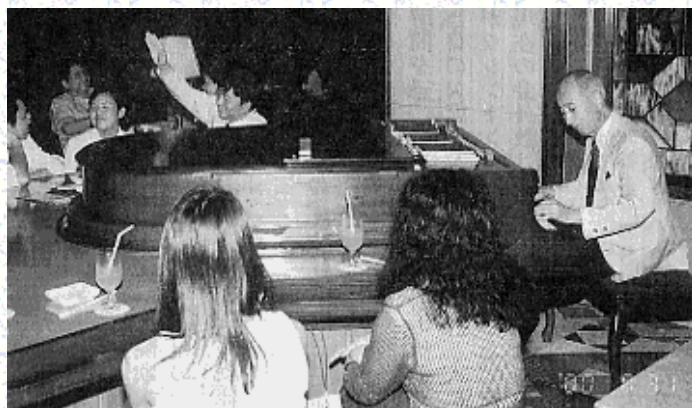
平成4年(1992)同社退社

昭和60年(1985)～現在

帝国ホテルのバーで演奏

(週5回:PM8:00~PM10:40)

水・日曜休み



▲TOP

違いを認め、違いを尊重する

特別専任教授 平野 次郎



平成12年の4月から女子大学でお世話になっています。

論より証拠の世界で社会人としての大半を生きてきた私にとって、とつぜん飛び込んだアカデミズムの世界は、証拠もさることながら論や説や学が大切な世界でありました。みずからの学のなさや、論の弱さに恥じ入ることしきりです。

女子大の教師が学生たちに向かって「少年易老学難成」といったら、古臭いといわれるでしょうし、また「いのち短し恋せよ乙女」といったら、挑発してはいけませんとお叱りをうけるかもしれません。しかしあえて、朱子が詠んだ詩の一節と中山晋平が作曲して一世を風靡した歌の一節を学生たちに求めるのは、学ぶにしても、生きるにしても、人生は素晴らしいものだということを知ってもらいたいからです。

ただし、双方を成就させなければならぬという厳しい条件をつけておきましょう。

情報が氾濫し、価値観の多様化がますます進んでいくのを見るとき、北アイルランドのベルファストで会ったノーベル平和賞受賞者のジョン・ヒューム氏のことばを思い出します。イングランド人とアイルランド人、プロテスタントとカトリックという民族と宗教の違いから長く対立していたふたつのグループの和解をなしたヒューム氏は、人間にとっていちばん大切なことは違いを認め、違いを尊重することだと熱っぽく語ったのでした。

学生たちには、60億のひとびとが共に生きる地球で、人や国が違いを認め、違いを尊重し、お互いを大切にしていくことが21世紀の世界の基本であることを、私自身の個人的体験のエピソードの紹介も含めながら、楽しくそして分かりやすく教えていきたいと考えています。

▲TOP

新刊紹介

著書・水産社会論

著者・若林良和（昭56法政）
定価7000円＋税
発行所 御茶の水書房

食卓にのる魚の変化に気づいて食事をしておられる方はどの位なのでしょう。200海里体制が敷かれて以来資源確保に加え国際協力の調査研究の成果を元とした著。地域漁業とソロモン諸島で合弁カツオ漁の現地化による効果を解明し、世界的視野に立ち、かつ生活に密着した密度の濃い貴重な研究と思われる。

著書・会社に行けなくなる程犬が好き

著者・田代省吾（昭43経）
定価1000円＋税
発行所 ポプラ社

住宅事情でペットの飼えない家族が多いなか、小犬の出現にとまどいを感じ乍らも許可した父親の勇断に拍手を送ると共に、爽やかな清涼剤としてペットの役割をじっくりと考えて見たい。

著書・海江田信義の幕末維新

著者・東郷尚武（昭28政）
定価710円＋税
発行所 文藝春秋（文春新書）

著者の母方の曾祖父にあたる海江田信義は、江戸城受け取りの責任者の大役を果たした後、貴族院議員・枢密顧問官等、明治政府の高官として天寿を完うしたが、桜田門外事件・安政の大獄などの犠牲者となった身内も多い。東郷平八郎元帥は父方の曾祖父であられる。明治維新と言う苛酷な時代を乗り越えた一族の生き方を纏めた歴史書としても興味を引く。

著書・哲学少女の歩いた道 「ニヒリズムからの脱出」

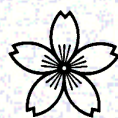
著者・池田晴代（本名小林晴代）（昭40哲）
定価1800円＋税
発行所 近代文芸社

戦中に生まれ、父方の御本家で養育され封建制度の間に立たされた女性、即ち母親の苦勞と自分の苦しみに振れ、それらを救ってくれた読書、特にニヒへの傾倒は強く、青春期にぶつかった命題、「何故に生きねばならないのか」を問いつめて行く事により己を確立した著者の気持ちをどれだけ理解出来るであろうか。

著書・英語イディオム逆引き辞典

著者・石川敏男（昭30英）
発行所 専修大学出版局

一般のイディオム辞典は見出しがイディオムで説明が簡単な英語でつけられているが、本吉はその逆で簡単な英語sleepにどんなイディオムがあるかを示した辞典。



桜友会80年のあゆみ

桜友会の設立 学習院は、明治十年に華族学校として生徒一三〇名を集めて開業した。十月十七日の開業式には天皇・皇后両陛下が親臨され、天皇陛下から勅諭を賜わり改めて「学習院」の号をつけられ勅額を賜った。

明治十七年、それまで文部卿の指揮又は宮内卿の監督を受ける私立学校であったものを宮内省所轄の官立学校と定められた。この頃出身者有志の親睦の会として「学習院同志会」が結成された。

その後出身文武官の有志を集って桜友会が組織され、後に陸軍出身者のみをもって桜友会が設立された。明治三十三年になって「学習院同志会」を解消し新たに卒業生の集まりとして「学習院同窓会」が設立された。学習院同窓会は活発に活動し、日清日露戦争には報国軍資金を献納し木杯一組を下賜されたとの記録がある。

一方、明治十八年には華族女学校も創立されたが、明治二十八年にはその同窓会「常磐会」が設立されている。

大正九年に、卒業生でクラブを作ろうとの気運が盛り上がり一年間に二十三回もの準備会が開かれ、翌十年一月二十五日に従来の学習院同窓会を発展的に解消し、新たに全卒業生団体として「桜友会」が組織された。

昭和二十年までの活動 設立総会開催の後桜友会は講演部・会報部・娯楽運動部・社会事業部等の組織を設け活動を活発に開始した。

毎月十八日に講演会を開催している。第一回目の講演者は日本銀行総裁井上準之助氏で続いて嘉納治五郎氏等の名前もありレベルの高い時宜を得た講演会が行われていた。

会報は大正十年四月に第一号が発行され、この時には名簿も掲載された。以後半年毎に発行、内容は講演録が中心に編集されている。

娯楽運動部では大正十年の年末にロシアのピアニスト、ポール・ヴィノグラドフ氏を招いて第一回の音楽会を開催、翌十一年六月には園遊会を開催、どちらも五百名にのぼる参加の記録が残っている。

大正十二年の関東大震災のあとは、会員に義損金の募集をするなど社会事業にも力を注いでいる。

大正十三年以降講演会・オペラ鑑賞・各種演奏会・観劇会（歌舞伎等）映画鑑賞会等会員に対する各種イベントは文化の香りも高く活発に展開されていた。

大正十五年には会員名簿が発行され以後一～二年置きに発行されている。

昭和二年には学習院創立五十周年を前に桜友会で寄付金を募集し、二万八千八百円という大きな募金を集めた。募金は母校に寄付されたことはもちろんであるが、旧師にも記念品を作成したり、またこの一部を基金として桜友会奨学金制度をスタートさせている。

新学習院の発足と桜友会 戦後は桜友会の拠点であった華族会館が進駐軍に接收されたため、桜友会事務所を島津邸に移した。終戦直後は会員相互の連絡も途絶え消息不明の会員も多く桜友会の活動も休止の状況にあった。

学習院は連合軍が進駐してきた中で、皇族や華族などの特権階級の学校とみなされ存続が危ぶまれた。危機感を持った山梨学習院長をはじめ院関係者、桜友会会員等が各方面に対して熱心な説得工作を続け、その努力によって、宮内庁は学習院の学制を改正し一般国民の教育機関であることを明確にし、また連合軍司令部も学習院が私学として存続することを了解した。

この様な状況の中で桜友会の活動も再開し、昭和二十一年九月二十八日学習院初等科に於いて終戦後初の総会が開かれ四十名が出席した。

私立学校へ移行することが決まった学習院は財政の基盤作りが急務となり、新院長安倍能成氏を中心に募金活動が開始され桜友会でも協力体制を築いた。昭和二十二年三月には財団法人学習院が認可され、私立学校として新学習院の発足が決定した。この時学習院と女子学習院が一体化されたが、女子学習院の同窓会「常磐会」が社団法人格を持っていた為、同窓会の一体化はならなかった。

昭和二十四年には大学が開設、二十五年に学校法人となり、短期大学も設置。

その後しばらく停滞していた桜友会活動は昭和二十六年になってメンバーを一新して同窓会館建設という新しい目標を掲げて活発な活動を開始した。そして常磐会と協力して昭和二十二年にこの念願の目標を達成する。

この間新制大学から卒業生が増加して行く中で、桜友会とは別組織で同窓会が組成されていく。大学「理学部同窓会」や短大卒業生による「草上会」が組織され別個の活動が展開された。

桜友会報 戦争により昭和十八年三月を最後に休止していた桜友会報は戦後昭和三十三年になってやっと再刊第一号を発行した。全八頁から成るこの会報のトップは安倍院長の「桜友会に寄す」の文で飾られていた。

会報の発刊のことは長い間懸案であったが、卒業生の数が当時で七千三百人を数え郵送料だけでも相当な額にのぼる為なかなか実現できなかったのである。

この発行の経費の基本となったのが昭和三十二年に導入された終身会費制度である。これにより安定した収入が期待できることとなり会報の復活がなされた。

会報は多数の会員に、常に会のこと母校のことに關心を持ってもらうという理由からも大切な情報伝達手段であるが、現在の十万人に近づこうとする会員に対する伝達費用は年間三千万円を要しており多大な経費がかかる点では今も大きな問題点である。インターネットによるホームページにも徐々にアクセスが増えているが今後の活用を更に検討して行きたい。

桜友会改組 昭和四十年代に入ると、大学・短大の卒業生数が増加し、二万人を超えるに至った。更に、学園紛争の火が学習院大学にも広がり、私学となった学習院を卒業生が守らねばとの危機感や、同窓会館の建設分担金も借金によらざるを得ない財政状態に対する緊張感が高まり、昭和四十二年六月、草上会からの強い要望によって、改組の為の小委員会が発足。先ず他校の同窓会の実態調査を開始。九月に報告書提出。昭和四十三年九月の理事会で桜友会の性格を会員相互の親睦団体にとどめるだけでなく、学習院を後援する団体として積極的な活動が可能となるよう会則改正が纏められ、「桜友会報」に発表された。

昭和四十四年七月、東久世桜友会理事代表の名で、約二百人の卒業生に改組委員委任状が送付され、快諾された約百名の人々による「改組準備委員会」が八月に発足。種々の検討会を繰返した後、翌年五月の臨時総会で会則改正と新役員を選出が決定、それ以前に発足した「理学部同窓会（昭和三十一年）」と「草上会（昭和三十四年）」は桜友会の「部会」として合流。ここに現在の桜友会の形が出来上り同時に、この二部会による資産が桜友会の資金に繰入れられて、その後の活動強化に大いに貢献した。

大学の法・経・文学部へは、昭和五十年九月、東久世会長名で、組織化の要望書が送られ、昭和五十七年の「経済学部会」を皮切りに順次組織化されるに至った。平成十一年には、新制高等科・中等科卒業生による組織も発足。ここに、会員組織の基礎となる「学部会」が確立した。

昭和四十六年三月、会員相互の交流を目的とした「桜友クラブ」が発足。現在では、種々の事情から「月例会」と改称しているが、一月と八月・十二月を除く毎月、霞会館で継続されている。一月には、桜友クラブ主催の「新年会」が昭和四十七年から盛大に開催され、更に、昭和四十六年に復活した「園遊会」も兼ねた「桜友会新年会」が昭和五十五年から実施され、今日に至っている。

「桜友会名簿」は、昭和二十三年に復刊後、二十九年、三十三年以降、隔年発行がされて来たが、昭和三十八年理学部に導入された電子計算機具体的活用手段の一つとして入試のデータ処理に並行して会員管理手段が検討され、これが昭和四十七年からの会員データのカード化、四十八年からの宛名印刷システムの完成、四十九年からのコンピューター化へと進歩する基礎となった。このおかげで改組後の四十六年からは、三年毎の定期的な発行が可能となり、データの正確さでも本邦随一とも言われるに至っている。

昭和九年に後輩指導目的の為の「桜友会学生部」が発足した。元来、会員相互の親睦活動は活発に行なわれて来たが、時代の変遷と共に、後輩指導の必要性が生じた故である。大学進学希望者、軍関係志願者、就職希望者を対象として便宜を計り、指導の労を採り、更に、結婚についての調査・相談にまで、その活動は拡大されたとの記録がある。戦後、これは、昭和五十年に理学部同窓会による「就職ガイダンス」に端を発し、現在の準会員進路対策活動に続いている。この他には桜友会奨学金を昭和六十二年より発足させた。この奨学金は特に高等科以下の生徒・児童を対象としている。また、平成十年にはすべての会員を対象に海外留学・研修を支援する為にスカラシップ・フェローシップを発足させた。

この様にして、桜友会会則にある目的の通り、

1. 母校へ積極的後援
2. 会員の互助親睦
3. 会社公共への寄与

の三項目が、八十年の歴史を基礎に確立し、更なる発展に向かって進み出した事は、非常に喜ばしい極みである。

桜友会の現況

会員総数	90,603名
正会員数	82,719名
普通会員数	7,884名
準会員数	13,405名
役員	
理事人数	38名
監事	5名
評議員	129名
役員候補者推薦委員	15名
財務	
基本会費積立	830,000,000円
平成12年度予算	158,000,000円
組織	
学会	6部
地方支部	40支部
国外支部	20支部
職域桜友会	363部
輔仁会OB会	185部



切手になった旧学習院初等科正堂



桜友会設立総会
(大正10年1月25日:華族会館)